

分布：北海道を除く全国

キツネノマゴ（キツネノマゴ科）

ユスティキア プロクムベンス
学名: *Justicia procumbens* var. *procumbens*

狐の馬子

別名：カグラソウ、メグスリバナ、カヤナ

主な生育場所

路傍や空き地、田畑の畔、水路やため池の法面など日当たりのよい明るい草地に普通にみられる。湿地わきの草原などやや湿った環境を好むが、頻繁に冠水するような場所には見られない。

特徴

高さ10～40cmほどの小型の一年草。茎には縦の稜があり短毛が生える。根元はやや地面を這い、よく分枝する。葉は対生し、長さ2～4cmほど。両面に毛がある。茎先に長さ7mmほどの淡紅紫色の唇花を密につける。下唇には白い斑紋。萼や苞の縁には白色の長毛があり、萼は深く5裂。さく果には卵円形の種子が4つ入る。



名前の由来：花が密についた花穂は深く5裂した萼がよく目立ち、花後にはふさふさと小さな狐の尾のように見えるから、唇花の丸く大きな下唇が狐の顔のよう、とか諸説あるがはっきりしない。

<農業との関係>

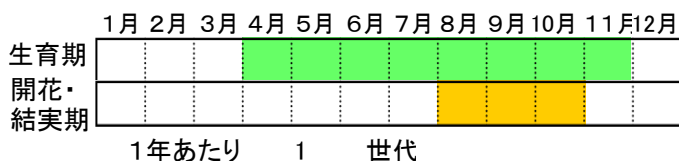
樹園下に生えることがあるが、草丈が低いため強雑草とはなりにくい。畦畔に生え、何回か刈取りに会うと分枝が増え、花穂も多くなる。



唇花の下唇は先が2裂し、白い斑紋がでる。

<生活史>

関東地方の例(目安)



<類似種>

琉球列島には全体小振りで葉がやや厚い、キツネノヒマゴが生育する。ヒユ科のヒナタイノコヅチも日当たりのよい路傍に生え葉は対生するが、キツネノマゴよりも大型で90cmほどになり、花は緑色。シソ科のヒメジソの葉には鋸歯がある。

<一言うんちく>

キツネノマゴの花言葉は「この上なくあなたは愛らしい」「可憐美の極致」「女性の美しさの極致」。数cmほどの花穂に、まばらに咲く小さな花ですが、唇型の花弁の中央には星の形のようにも見える白い模様が見え、確かに奥ゆかしい可憐さを感じることができるのではないのでしょうか。



花後の穂は萼や苞が目立ち、ふさふさに見える。

<人との関わり合い>

平安時代の「本草和名」に生薬名爵状(しゃくじょう)として記載されるほど、薬草としての歴史は古い。刈り取った全草を日干しにしたものを煎じて飲むと、鬱病や解熱、咳止めに良いとされる。また、入浴剤にすれば腰痛や神経痛、リュウマチに良いとも。葉の絞り汁は充血を抑え、気分を爽快にさせる効能も有する。清朝時代の中国では目薬にも利用していた。

また、若葉は茹でて和え物やお浸しにして食べられる。

<俳句や短歌への登場>

【季語：設定はない】

この草も里地にありふれた草だが、これまで俳句や短歌で扱われてきたことはほとんどない。「狐の孫」という6文字の名前も俳句等で扱いにくい理由のひとつかも知れない。